

標 題	柿園全園巡回で着果量及び果実肥大状況等を確認（JAしまね平田柿部会）
-----	------------------------------------

（ダイジェスト）

JAしまね出雲地区本部平田柿部会は8月2日に部会役員、事務局、NOSA I 島根、県庁、農業技術センター、出雲農業普及部などの関係機関が参加する全園巡回を実施し、平年並みの着果量と果実肥大を確認するとともに、病虫害についてはコナカイガラムシ類、ハマキムシ等が散見されるものの特に大きな問題となっていないことを確認しました。

全園巡回は部会役員、事務局（JAしまね出雲地区本部東部営農センター）、NOSA I 島根、県庁、農業技術センター、出雲農業普及部などの関係者35名が8班に分かれ部会員93名全員の圃場を巡回しました。着果量、果実肥大、日焼け状況、樹勢、夏枝管理、採光環境、病害虫の発生状況等を確認しました。

果実の肥大状況は、平均果径で西条45.9mm（平年比103%）、富有61.2mm（平年比101%）、伊豆61.1mm（平年比105%）と昨年をやや上回る肥大であること、昨年、最終的には大きな問題となった日焼けについては、現状においては少ないこと、また、着果量は多くはないものの昨年を上回る可能性が高いこと、病虫害についてはコナカイガラムシ類、ハマキムシ等が散見されるものの特に大きな問題となっていないことも確認しました。

巡回終了後、参加者全体で今回の調査結果を整理し情報を共有し、また、生産者個々には今後の管理のポイントを送付し、今後の栽培管理の徹底に役立ててもらうことにしています。

なお、平成18年から実施している全園巡回ですが、これまでのデータの蓄積により、全園巡回時の果実横径と出荷シーズンを通した大玉率（2L以上率）との相関が高いことなど感覚的にはわかっていたことが、数値として明確にわかるようになっていきます。

